

Editor's Choice

今月の編集部オススメのソフト&ハード

今月のおすすめは、低価格で簡単にWWWサーバーが構築できる「Micro Web Server」、検索エンジンにアクセスして情報を取得し、自分のデータベースを作成できる「WEB COMPASS」、バージョンアップで機能アップが図られたホームページ録画ツール「Net Recorder 2」、GUIで簡単に設定できるルーター「MUCHO」、ページの更新を自動的にチェックしてくれる「Web What's New」、米国の回線にも対応したISDN用PCカード・ボードの「Surf 2 Surf EZ」だ。

今月のラインナップ

これ一台でWEBサーバーを構築できる

Micro Web Server

[開発元] 日本シスコシステムズ株式会社



検索サーバーを駆使する情報検索ツールの決定版

WEB COMPASS

[開発元] QUARTERDECK(米国)



録画感覚のWebページ自動ダウンロードソフト

Net Recorder 2

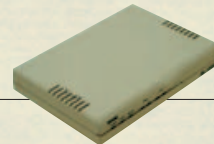
[開発元] ザクソン株式会社



GUIで簡単に設定できるルーター

MUCHO

[開発元] 古河電工株式会社



更新されたページを自動的に取得してデータベース化する

Web What's New

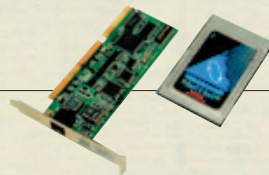
[開発元] エー・アイ・ソフト株式会社



米国でも使えるISDN用PCカードと内蔵ボード

SURF 2 SURF EZ

[開発元] 株式会社エルミックシステム



付録のCD-ROMに収録

このコーナーの見方



市販の
ハードウェア製品



市販の
ソフトウェア製品



シェアウェアの
ソフトウェア



フリーウェアの
ソフトウェア



ウィンドウズ95用



ウィンドウズ3.1用



ウィンドウズNT用



OS/2用



マッキントッシュ用



UNIX用



動作環境



発売元



電話番号



価格



関連情報



バージョン



作者/開発元



入手先

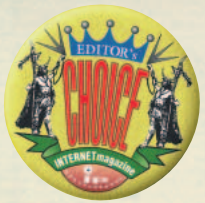


付属品



ファイルサイズ/
最速転送時間

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。



これ一台でWEBサーバーを構築できる

マイクロ ウェブ サーバー

Micro Web Server

¥ 128,000円
(希望小売り価格)

各代理店 (伊藤忠テクノサイエ
ンス株式会社、大塚商会など)

ここがスゴイ!

- ① つなぐだけでWWWサーバーが構築できる
- ② 設定がGUIでできる

おすすめ度

[ユニークさ]
[コストパフォーマンス]
[使いやすさ]
[期待度]
[総合]



WEBサーバーに限らず、サーバーの構築というのはなかなか手間がかかるものだ。コンピュータを購入し、OSをインストールし、WEBサーバーソフトをインストールしなければならない。Micro Web Serverは、これらの手間を省くマシンだ。これ一台あれば、WEBサーバーの構築が大変簡単に安価に可能になる。イントラネットの構築も手軽にできるだろう。

▶ ZIPドライブを内蔵したコンパクトな筐体

本体は低価格のダイヤルアップルーターより一回り大きいくらいで、パソコンよりはるかに場所を取らない。ZIPドライブを装備しており、これで各種のソフトウェアのインストールをする。背面には、10BASE-T用のポートがあり、ネットワークに接続すればすぐにサーバーを構築することができる。

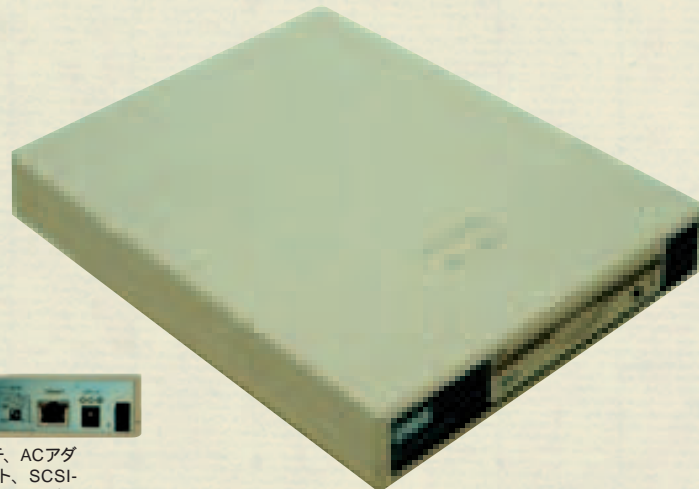
設定する際には、同じLANにつないだパソコンからアクセスする。WWWブラウザから設定用のページを操作する。マシンに割り振るIPアドレスの設定やパスワードの設定、使用するプロトコルの種類などがGUIで設定できるので、実に簡単にサーバーを構築できる。

もしも企業内で各部署に装備するような状況になっても、部署内の人が簡単に設定できるので便利だ。UNIXのコマンドなども覚える必要がないので、専門的な知識を持たなくても大丈夫だろう。ウィンドウズNTなど、パソコン用のサーバー用OSを購入する必要もなく、低価格で済む。

▶ 小さいが実力は十分

製造元の日本シスコシステムズ株式会社によると、データのスループットは毎秒2Mbpsだという。また、同時に最低10のコネクションを提供できるというから、ちょっとしたPCサーバーに比べれば性能は良い。

記録メディアとしては、ZIPドライブが標準で装備している。ZIPドライブとはフロッピーディスクのような形状をしている読み書きが可能なメディアで、1枚に100Mバイトのデータが入る。そのほか、SCSIポートも備えているので、SCSIハードディスクをつなげば1.2Gバイトまで容量を増やせるようになっている。また、CD-ROMも5個までつなげられる。プロトコルはHTTP1.1に準拠しており、BOOTPにも対応している。



◎ 本体にはZIPドライブが付く。



◎ 背面。右から電源スイッチ、ACアダプター、10BASE-Tポート、SCSI-IDの切り替えスイッチ、シリアルポート、SCSIポート。

試用レポート

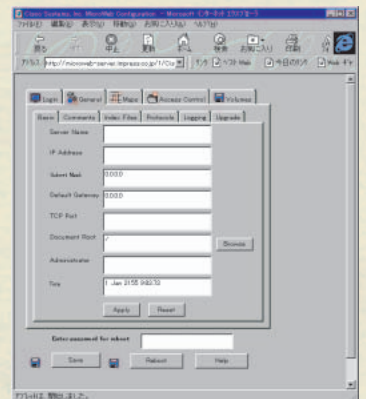
▶ セットアップは簡単

実際にインプレスのネットワーク内で使ってみた。最初に感想から言うと、あっけないくらい簡単にWWWサーバーが立ち上げられた。

まずはMicro Web Serverに添付のZIPディスクを入れて10BASE-Tポートにイーサネットケーブルをつなぎ、電源を入れる。完全に起動したら、LAN上のウィンドウズ95がNTがインストールされたパソコンから設定してみる。パソコンにはインターネットエクスプローラ3.0やネットスケープナビゲーター3.0など、Javaが使えるブラウザをインストールしておこう。URLにIPアドレスを入力してアクセスすると、設定用のページが表示される。その後、各種設定をすればいい。これら一連の作業は実に簡単だ。また、作ったページを転送するための転送ソフトウェアも添付している。ウィンドウズ95がウィンドウズNT用のソフトウェアだ。このソフトウェアによりHTMLファイルを転送すれば、それだけでWWWサーバーのできあがりだ。

OCNエコノミーの登場などにより、だれもが簡単にサーバーを構築できるような状況が整ってきた。このような時代に、このような安価でメンテナンスが容易な端末の登場は新しい時代を感じさせる。サーバー構築が面倒くさいという人にぜひおすすめしたい。

(編集部)



◎ 設定画面。WWWブラウザから設定できる。

Micro Web Server

- 各代理店
- 日本シスコシステムズ株式会社
- ¥ 128,000円
- 03-3342-4100
- http://www.cisco.co.jp/JAPANESE/product/pa/pa_mweb/pa_mweb.html



検索サーバーを駆使する情報検索ツールの決定版

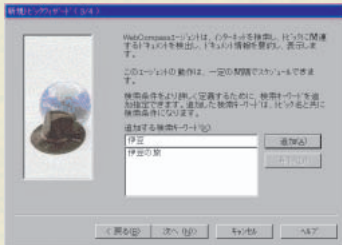
ウェブコンパス

WEB COMPASS

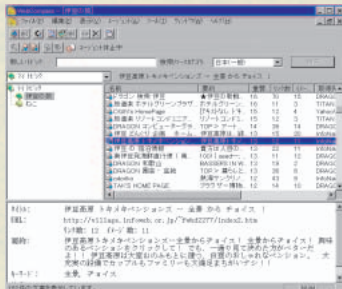
12,800円(希望小売り価格)
9,800円(キャンペーン価格)

株式会社クボタ

QUARTERDECK(米国)



○新規トピックウィザードでキーワードを設定するだけ。



○検索結果は、名前、要約、重要度などでソート可能。検索結果をさらに内部検索することも。

ここがスゴイ!

- ① 複数のサーチエンジンを並列検索
- ② ホームページの要約を自動生成
- ③ スケジューラーで、データベースを自動更新

WEB COMPASSは、国内外の検索サーバーを駆使してWebを自動的に検索する情報検索ツールだ。キーワードをもとに検索サーバーにアクセスして自動的にURLを取得するだけでなく、そのWebも読み込んで要約を自動生成しデータベース化することができる。作成されたデータベースは、自動的に「重要度」が算出されるという念の入れようだ。

▶ キーワードでパラレル・サーチ

ある情報を調べたいときには、「千里眼」「ODIN」「Infoseek」「Yahoo!」などの検索サーバーで手作業で検索するというのが、多くのユーザーの典型的な情報検索のやり方だ。WEB COMPASSを使うと、このような典型的だが時間がかかり面倒な検索作業を自動的に行うことができる。「CSJ」「Hole-In-One」「Infoseek Japan」など国内外の45の検索サーバーがあらかじめ設定しており、「新規トピックウィザード」を使ってキーワードを設定するだけで、検索サーバーでの作業が開始される。検索作業は複数の検索サーバーに対して同時に行われるため、手作業で1つのサーバーで検索しているのと同程度の時間で終わってしまう。使用する検索サーバーは、45のすべてを使うわけではなく、それぞれの検索サーバーが得意とする分野ごとにグループ分けされている。国内のサーバーに関しては「日本(一般)」というカテゴリーでまとめられているので、国内のWebを検索する際はこのカテゴリーを使用する。もちろん、検索サーバーの設定は自由に変更できるので、検索サーバーのアドレスが変更になったり、強力な検索サーバーが現れたときにも利用できる。

▶ 「要約」を自動的に生成できる

検索サーバーを利用して不便なのは、検索の結果表示されるWebの紹介文があまり役に立たないということだ。特に、マッチしたURLの数が多き場合には、結局1つ1つのWebの内容を確認しながら調べないと、求める情報にたどりつくことができなかった。

WEB COMPASSでは、検索サーバーでURLを調べたあと、その該当するページにアクセスして要約を自動生成してくれる。要約といっても内容をこまかく吟味したものではないが、検索に使ったキーワードが現れる部分の前後を切り出しているのではないかとと思われる。要約とホームページのタイトルで、どのようなページかを

かなり推測できるため、欲しい情報への距離はグンと縮まった感じだ。この要約の機能が、WEB COMPASSの価値を決めているといってもいいだろう。また、検索したWebを、キーワードの出現頻度などで100点満点でランキングする機能があり、これも情報検索の指針となる。なお、WEB COMPASSのホームページでは、要約をスピードアップする差分ファイルが公開されているので、ぜひ入手されたい。

▶ インターネットをデータベースに

WEB COMPASSには、定期的にキーワードの検索を再実行するためのスケジューラー機能が付属している。検索のスケジュールは個々のトピックごとに設定が可能で、Webの検索と要約作業を別々のスケジュールで実行できる。このように定期的にデータベースを更新し、不要なデータを削除するように心掛けていけば、インターネットのインデックスデータベースとしての利用が可能だ。このように作成したデータベースを「表示」メニューの「ブラウザーにURL/トピックを表示」の機能を使いブラウザー上に表示させ、ファイルメニューで適当なファイル名でHTMLファイルとして保存すれば、このデータベースを共有して利用することも可能。企業内での情報検索ツールとしても、十分に威力を発揮するだろう。もちろん、プロキシサーバーにも対応しているので、ファイアウォールの中からも使える。

▶ ダイアルアップの制御ができない

難点をいえば、ウィンドウズのダイアルアップ接続をコントロールできないことだ。ウィンドウズで自動接続を設定しておけば、スケジューラーで設定した時刻にダイアルアップ接続することは可能だが、ウィンドウズの自動切断時間が経過するまでは繋がったままになってしまう。専用線ユーザーやテレホーダイと固定料金プロバイダーのユーザー以外は、スケジューラーは使わないほうがいいだろう。また、日本語に移植された製品でありがちなのだが、40,000件もあるという登録済みのトピックが英語のサイトに偏っており、国内をターゲットにしたトピックがやや淋しい気がした。

しかし、これらのことを差し引いても、その実用性は高い。検索サーバーの欠点をうまくカバーした、情報検索ツールの決定版といえるだろう。(梅垣まさひろ)

おすすめ度
[ユニークさ]
[コストパフォーマンス]
[使いやすさ]
[期待度]
[総合]

WEB COMPASS

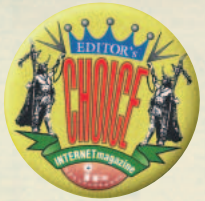
株式会社クボタ

2.00

9,800円

03-3454-8201

http://www.pinnacle.co.jp/
webcomp/index.html



録画感覚のWebページ自動ダウンロードソフト

Net Recorder2

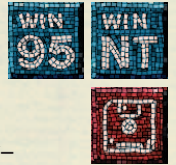
ここがスゴイ!

- ① SiteMap機能で見たいWebページをダウンロード
- ② パスワードのかかったWebページに対応

【ユニークさ】
 【コストパフォーマンス】
 【使いやすさ】
 【期待度】
 【総合】

11,800円(希望小売り価格)
 8,800円(キャンペーン特別価格)

ソフトバンク株式会社
 ザクソン株式会社



ビデオ録画感覚のWebページダウンロードソフト、NetRecorderがバージョンアップして使いやすくなった。パスワード認証のあるページを録画できるようになり、SiteMap機能によりダウンロードしたいページだけを選択、必要なページを効率的にダウンロードできるようになった。また、ブラウザのブックマークを取り込めるようになったので、面倒なURLの指定もブックマークから選択できる。

▶ 録画感覚のダウンロードソフト

すでにいくつかの類似製品が出回っているが、NetRecorder2はブラウザのプロキシサーバーとして機能するタイプのソフトだ。ホームページの自動ダウンロードソフトの中には、ファイル名やリンクを書き換えてしまうものがあるが、プロキシサーバータイプのNetRecorder2は、そのような書き換えによるトラブルとは無縁だ。

初期設定も簡単で、NetRecorder2を起動した後にブラウザを立ち上げると、ブラウザのプロキシ設定が自動的に変更され、すべてNetRecorder2を経由してアクセスされるようになる。いったんNetRecorder2が取り込んだページデータは、接続が切れた後でも特別な指定なしにブラウザで表示できる。まとめてWebページの情報をダウンロードしておき、あとでゆっくり見るといった使い方には最適だ。録画は、URLを指定、ブラウザのブックマークから取り込み、現在ブラウザに表示されているURLを取得、といった方法があり、その時に応じてボタン一発で簡単だ。

▶ SiteMapで必要なページをダウンロード

いったん録画したページは、SiteMapとよばれるWebを階層構造で表したウィンドウに表示される。またダウンロードしていないページがあれば、「ロード」ボタンでそのページだけをダウンロードしたり、「録画」ボタンでそのページ以下を録画することができる。アイコン上でマウスの右クリックをすると出るポップアップメニューでも同様の操作が可能だ。また「設定」メニューの中の「HTML解析専用モード」をオンしておく、WebのHTMLファイル以外のデータは記録しないので、テキストデータのみが必要な場合に、より高

速なダウンロードが可能になる。パスワードがかかっているページにも対応したので、有料サービスなどの中身をダウンロードすることもできる。

▶ タイマー録画で快適サーフィン

タイマー録画機能を使えば、必要なサイトのデータを深夜の時間帯などに一気にダウンロードできる。タイマー録画には、デフォルトの設定と個々のページに対応した設定とがある。個別の設定がされていないページをタイマー予約すると、あらかじめ設定されている時間に実行される。「設定」メニューから「録画設定」、「タイマー録画」で指定可能で、開始時間や実行間隔などを細かく設定できる。また、実行中のすべてのタイマー処理を中断する「終了時刻」が設定できるので、テレホーダイを利用しているユーザーには安心だ。

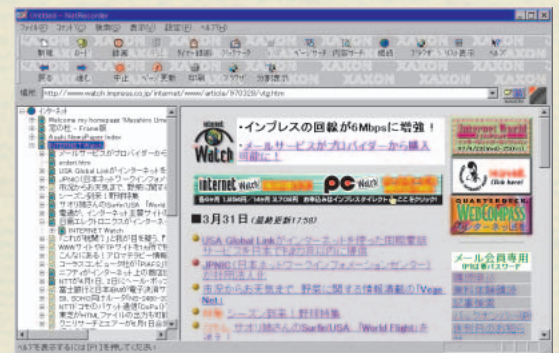
▶ Javaやショックウェーブにも対応

Javaやショックウェーブなどのページも丸ごと録画できる。ただし、サーバーと接続して処理をおこなうようなJavaアプレットなど一部動作しないものがある。CGIもまれにうまく表示できないデータがあった。なお、この件については対策を検討中とのことなので、ホームページなどで確認してみたい。

▶ 毎日新聞を自動配信

開発元のザクソンは毎日新聞と提携し、月額2,000円で毎日新聞の朝夕刊をWeb化した「毎日デイリークリック」をダウンロードするサービスを開始している。NetRecorder2を使ってまとめてダウンロードできるので、接続時間を気にしながら読むのではなく、ダウンロードしたデータにじっくりと目を通すことができる。毎日新聞の購読料が現在3,850円だから、安価な価格設定となっている。(梅垣まさひろ)

① メイン画面。SiteMapと組み込みブラウザで必要な情報だけをダウンロード。



② タイマー設定で、自動ダウンロード可能。テレホーダイユーザーにはオススメだ。

Net Recorder2

ザクソン株式会社
 2.00
 8,800円
 06-945-6793
<http://www.xaxon-net.or.jp/netrecorder/>



¥ 69,800円(ダイヤルアップ用)
88,800円(専用線/ダイヤルアップ用)

古河電工株式会社



①TA(ターミナルアダプター)と見まちがちな筐体。



②背面。右から終端抵抗の切り替えスイッチ、ISDNポート、10BASE-Tポート1、2、10BASE-T極性反転スイッチ、シリアルポート、アース、ACアダプター。



③GUIで簡単に設定できる。

MUCHO

古河電工株式会社
69,800円(ダイヤルアップ用)
88,800円(専用線/ダイヤルアップ用)
03-3286-3430
ISDNケーブル、ACアダプター
<http://www.furukawa.co.jp/>

GUIで簡単に設定できるルーター

ムーチョ

MUCHO

ここがスゴイ!

- ① ウィンドウズ95上で簡単にセットアップできる
- ② 端末型ダイヤルアップ接続で複数のマシンからアクセスできる
- ③ 低価格

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]

複数のマシンからインターネットにアクセスするには、LAN型ダイヤルアップ接続や専用線接続をする。このときに使うのが「ルーター」という機器だ。ルーターは従来まで、複雑なコマンドを理解して設定しなければならなかった。この点をクリアして、初心者にも簡単に設定できるようにしたのが、古河電工の新しいルーター「ムーチョ」だ。ルーターが持つ仰々しさを感じさせないネーミングと価格の安さで、従来のルーターに対するイメージを一新するような製品である。

▶ GUIで簡単にセットアップできる

ルーターはほとんどの個人ユーザーにとって馴染みの薄いものだと思う。設定もモデムやTA(ターミナルアダプター)よりも難しいというイメージがあった。ルーターの設定が難しいのは、通信ソフトウェアによるTELNETで設定画面を表示させ、コマンドラインによる操作をしなければならないものがほとんどだったからだ。モデムやTAはGUIによる設定が一般的になった今となっては、これでは初心者には厳しいといわざるを得ない。これらのことを考慮してか、最近になって、ウィンドウズ95やマッキントッシュに設定のアプリケーションをインストールして、そのアプリケーションから設定できるようになっているルーターが増えてきた。MUCHOもこの点は十分考慮されており、GUIによるインストールが可能になっている。

▶ 端末型で複数のパソコンからアクセスできる

MUCHOの特徴としては、ほかに、「NAT+(プラス)」と呼ばれる機能がついている点が挙げられる。NATとは、アドレス変換機能のことで、インターネットで使われるIPアドレスをローカルで使われるIPアドレスに変換する機能だ。ところが、NAT自体には、LAN上の複数マシンからアクセスできる機能はない。複数マシンからアクセスする場合、同時にWEBにアクセスしたり、FTPの際にデータを損失することなくファイルを転送することができなかった。NAT+というのは

NATでは従来できなかったことを可能にする。LANを端末型のアカウントで接続し、複数マシンからのアクセスを可能にもするし、FTPの際にもデータを損失することがない。つまり、端末型ダイヤルアップの接続形態で、LAN上の複数のマシンから同時にインターネットにアクセスできるネットワーク型ダイヤルアップ接続と同じ機能を実現できる。

▶ 従来に比べて価格が安い

MUCHOにはMUCHO-PSとMUCHO-STがある。前者はダイヤルアップ専用、後者は常時接続もできるタイプだ。MUCHO-STはOCNエコノミー(128kbps低速系常時接続サービス)にも対応しているの、OCNの常時接続サービスを将来考えている人は、MUCHO-STを選択したほうがいい。価格は「PS」が69,800円、「ST」が84,800円である。今年に入って10万円をきる価格のものが増えてきているが、ダイヤルアップ専用が69,800円とはかなり安いといえる。

試用レポート

▶ GUIによる設定は実に簡単

今回はMUCHO-STをお借りし、端末型ダイヤルアップによる複数マシンからのアクセスおよび、LAN型ダイヤルアップへの接続を試してみた。設定するためには、パソコンと接続するためにRS-232Cのクロスケーブルを別に用意する必要がある。まず、設定するために、MUCHOをパソコンに接続して、設定してみる。MUCHOのGUIによる設定はとてお分かりやすい。つないでしまえばウィンドウズ95に設定ソフトウェアをインストールするだけで、あとは接続先の電話番号などを入力するだけだ。これなら初心者にも簡単にできるだろう。端末型ダイヤルアップ接続もLAN型ダイヤルアップ接続も、両方GUIによる設定ができる。端末型ダイヤルアップによる複数マシンからのアクセスも快適だ。同時にアクセスしても、ISDNで接続しているからか、WEBの表示などもたつくことがない。価格の安さと初心者を意識している点で、大変評価できる。ルーターの初心者におすすめのモデルであると言える。(編集部)



更新されたページを自動的に取得してデータベース化する

ウェブ ホワッツ ニュー

Web What's New

ここがスゴイ!

- 1 Webページの最新情報だけを高速に自動検出
- 2 「タイマー運転」で常に最新情報をキャッチ

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]

Web What's New は、チェックしておきたいWebページを自動で監視し、更新された情報だけを取り出してデータベース化するツールだ。ニュースサイトやメーカーのニュースリリースなど、登録しておくだけで自動的に最新情報を確認できる。あらかじめ情報源となるWebの一覧も用意されているので、URLが分からなくても関連する情報にすぐアクセスできる。

▶ エージェントで最新情報をゲット

「エージェント」とは、どこのページをどのような時間間隔でチェックするかという一連の作業のことを言う。1つのページに対して1つのエージェントを作成する。調べたいページのURLがわからなければ、あらかじめ用意されている情報源サイトの中から選ぶこともできる。エージェントの設定ができれば、あとはそのエージェントを実行するだけで情報の取得がはじまる。はじめての情報取得には若干時間がかかるものの、2回目からは更新されたページだけを対象にするので、かなり時間が短縮される。取得した情報は日付やURLをキーにデータベースとして保存され、右側のウィンドウに画像を除いたHTMLデータとして表示できる。また、データベースをキーワードで検索する機能もある。文字情報を中心としたサイトなら、ブラウザで閲覧するより、エージェントでまとめて取得した情報をオフラインでゆっくりと読んだほうが圧倒的に経済的だ。

考えてみると、毎日のWebサーフィンで見ているページの大半は、すでに何度も見たことのあるページがほとんど。最新情報のチェックのためだけに見ているというのが多いだろう。それなら、このWeb What's Newで更新されたページだけを効率的にチェックしたほうが、時間も課金も大いに節約できるというわけだ。

▶ タイマー運転で自動更新

タイマー運転機能を使えば、定期的に最新情報のチェックを行うことができる。ダイヤルアップ接続の場合でも、接続と切断が自動化されているので無人運転が可能だ。夜に寝ている間にニュースなどの最新情報を自動でチェックするように設定して、翌日に最新情報を確認するという使い方もいいだろう。取得された情報はテキストデータのみなので、それ以外の情報が必要となるときはあらためてブラウザを起動して、そのページ

を確認する。なお、新着情報はWhat's New Tickerとよばれる「電光掲示板」のようなウィンドウに表示されるので、それを眺めながら気になるページを確認するという使い方もできる。

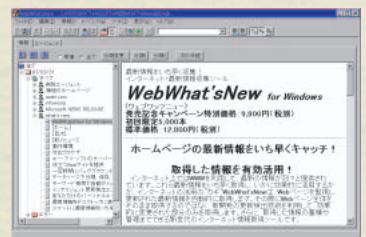
▶ エー・アイ・ソフトが専用サーバーを用意

発売元であるエー・アイ・ソフトでは、このWeb What's Newの機能に対応した専用サーバーを立ち上げる用意をしている。専用サーバーは、Web What's Newが直接サイト情報を調べるかわりに、エー・アイ・ソフトの専用サーバーが更新された情報を随時調べ、その情報をWeb What's Newから利用できるようにするというものだ。この機能は、エージェント作成ウィザードの「実行方法」チェックボックスで、「サーバー」を選択することにより可能となる。ユーザーの使用感覚はまったくかわらないが、エー・アイ・ソフトのサーバーが作成してくれた更新情報を使うことにより、情報取得のスピードが向上してクライアント側の負担を軽減できる。なお、エー・アイ・ソフトのサーバーは原稿執筆段階ではまだ立ち上がっておらず、動作を確認することはできなかった。このWeb What's Newのサーバーを製品として出荷する予定もあるということなので、サーバーを社内を導入して他社のサイトを逐次チェック、更新情報を社内に行き渡らせるといった使い方もできるとのこと。

▶ 検索の深さを指定できない

エージェントで、「窓の杜」(<http://www.forest.impress.co.jp/>)にアクセスしているときに感じたのだが、検索する深さを指定できないために、不必要な情報もかなり取り込んでしまう傾向があるようだ。エージェントのプロパティで「情報内容(リンク)を取得する」「外部サイトの情報は取得しない」といった設定をすることである程度制御が可能だが、もう少し細かく指定できると便利だ。また、画像ファイルなどをデータベースに保存する対象として扱えればさらに利用範囲が増えるだろう。このソフトを使ってみて、一番便利なのはやはりニュースサイトだ。「インターネットウォッチ」や「asahi.com」など、毎日ニュースを流しているサイトを登録しておけば、常に最新の情報を取得できる。筆者自身、評価に要した3日間、快適に使うことができたことを付け加えておきたい。(梅垣まさひろ)

12,800円(標準価格)
9,800円(キャンペーン特別価格)
エー・アイ・ソフト株式会社



1 Web What's New のメイン画面。HTML表示は、インターネットエクスプローラと同じ。ショートカットの作成などもできる。

「日本版 3月28日(金) 発売

2 What's New Tickerは、駅前のニュース速報を伝える電光掲示板を思わせる。

Web What's New

エー・アイ・ソフト株式会社
1.00
12,800円
03-3376-7440
<http://www.aisoft.co.jp/aisoft/japanese/products/whatsnew/whatsnew.htm>



PCカード型 オープンブライズ
(参考流通価格39,800円)
内蔵型 - オープンブライズ
(参考流通価格29,800円)

株式会社エルミックシステム



① PCカード型はISDN公衆電話での使用には最適。

米国でも使えるISDN用PCカードと内蔵ボード

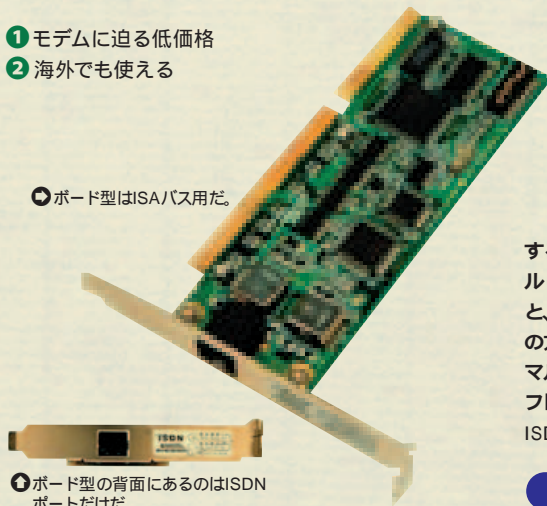
サーフ・ツー・サーフ・イージー

SURF 2 SURF EZ

ここがスゴイ!

- ① モデムに迫る低価格
- ② 海外でも使える

③ ボード型はISAバス用だ。



④ ボード型の背面にあるのはISDNポートだけだ。

ISDN用のターミナルアダプターも低価格のものがかなり増えてきた。ただ、価格が下がってきているのは外付け型のものが多く、PCカード型やボード型の方は発売している会社も少ないせいか、低価格のものは少ないというのが実状だ。エルミックシステムが新しく発売した「SURF 2 SURF EZ」シリーズはPCMCIA型とボード型の2種類あり、価格はどちらもオープンブライズだ。メーカーが提示している参考流通価格によると、PCカード型は39,800円、ボード型は29,800円となっている。手ごろな価格で買えるISDN用カードの登場だ。なお、ボード型はISAバス用である。

▶ 低価格だが機能は充実

低価格を実現しているSURF 2 SURF EZだが、機能はどうだろうか。まず、双方とも、128Kbpsで通信できる。PPP-MPC(PPPマルチリンクプロトコル)をサポートしている。128KbpsをサポートしているPCカード型のターミナルアダプターはまだ少ない。シリアルポートを意識する必要がないので設定は非常に楽だ。

▶ PCカード型は米国でも使える

SURF 2 SURF EZの大きな特徴の1つに、米国でも使用できることが挙げられる。ISDNはアナログ電話線と違い、国によって接続方式が大きく違う。SURF 2 SURF EZでは米国でもきちんと接続できる。対応している回線は「AT&T5ESS」「Northan Telecom DMS-100」「National ISDN 1」の3つと、主要な電話会社の方式に対応している。海外での出張が多い人などにはぜひおすすめである。

おすすめ度

[ユニークさ]
[コストパフォーマンス]
[使いやすさ]
[期待度]
[総合]

さらに、SURF 2 SURF EZは、マイクロソフトが提供する「ISDNアクセラレーターパック1.1」をインストールして使うことが前提になっている。インストールすると、「ISDNツール」というソフトウェアで、どの国のどの方式の回線を使うかが設定できる。PPP-MPC(PPPマルチリンクプロトコル)による128Kbps通信もこのソフトウェアで集中管理できるので、初心者でも簡単にISDN通信が楽しめる。

試用レポート

▶ プラグ・アンド・プレイで設定は簡単

実際にボード型、PCカード版と双方のモデルを試してみた。両方ともウィンドウズ95のプラグ・アンド・プレイに対応しており、簡単にセットアップできる。なお、ボード型については、ウィンドウズNTや3.1でも使えるように、ディップスイッチがある。出荷時にはプラグ・アンド・プレイに設定してある。

まず、マイクロソフトが提供する「ISDNアクセラレーターパック」をインストールする。その後、カードを差し込めば自動的に認識して、後は画面の指示に出るようにドライバーをインストールすればよい。プロバイダーの「IIJ」にダイヤルアップしてみたところ、PCカード型とボード型の両方で接続が確認できた。

ボード型のパソコンへの組み込みは、パソコンの筐体を開けなければならないので、初心者には難しいかもしれないが、SURF 2 SURF EZの低価格は魅力だ。外付け用のTAをすでに持っている人が2台目のマシン用に使うならぜひおすすめする。

ただし、忘れてはならないのが、外付けのTAと違ってアナログポートを装備していない点だ。DSUにつなげばパソコンからインターネットへは接続できるが、アナログの電話は使えないので注意しよう。アナログの電話を使うためには、アナログポートを備えたTAを別に揃える必要がある。株式会社エルミックシステムはアナログポートを備えた「Insentire」というTAを発売しているのでこれを利用してもよい。また、4月号で紹介した日新電機株式会社のアナログポート付きのDSU「InterSocket」もおすすめだ。これなら、わざわざアナログポートのために、別にTAを買う必要がない。

(編集部)

SURF 2 SURF EZ

株式会社エルミックシステム
PCカード型 オープンブライズ
(参考流通価格39,800円)
内蔵型 - オープンブライズ
(参考流通価格29,800円)

045-664-5171

ISDNケーブル、ドライバーディスク、INSネット64回線申込書



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp